

図書館 Web サイトの評価に関する研究

佐藤 悠

現在、ほとんどの図書館 Web サイトは蔵書検索や予約サービス、利用者マイページ、デジタルアーカイブ、イベント情報のお知らせや SNS など、様々なサービスを提供している。しかしながら、図書館 Web サイトとして重要なコンテンツが欠けていたり、あるいは重要であるにもかかわらず目立たない位置に配置されていたりするなど、問題のある図書館 Web サイトも多い。従来の図書館 Web サイトの評価は、アクセシビリティやユーザビリティを用いて行われることが多かったが、これらは図書館 Web サイトのサービスを評価しているとはいえない。

そこで本研究では、意味と表現の一致に着目して、図書館 Web サイトのサービスを評価するガイドラインを策定し、その有効性を検証することを目的とする。

意味とは、地域住民のニーズに応える、中高生の読書活動を推進するなどといった図書館の目的、地域住民や中高生などの対象として想定する利用者、地域住民のニーズが高いと思われるサービスやヤングアダルトサービスなど目的から重要だと考えられるサービスといった要素から構成される。表現の一致とは、明らかになった意味にしたがって優先順位の高いものから目立つように表現することである。

本ガイドラインにおける意味と表現を一致させるための手順を説明する。まず、図書館 Web サイトの目的、目的において対象となる利用者、目的のために必要なサービス、複数あればその優先順位を明らかにする。次に、設定した優先順位にしたがって、トップページにおけるコンテンツの位置や占める面積を大きくすることで、優先順位の高いものから利用者の目に留まりやすいように表現する。

本ガイドラインの有効性を検証するために、都道府県立図書館のうち、3館の図書館 Web サイトを対象に、意味と表現が一致しているか、一致させる手法がガイドラインで示したものと同じかを調査した。その結果、東京都立図書館は 8 項目中 5 項目 (62.5%)、埼玉県立図書館は 11 項目中 6 項目 (54.5%)、群馬県立図書館は 15 項目中 8 項目 (53.5%) だった。表現の事例としては、トップページの中央への配置、バナーを用いてトップページにおいて占める面積を大きくする、背景色と文字色の工夫、動画によるコンテンツ紹介などがあり、それらの要素も意味に応じて表現を工夫する上で重要な要素だと分かった。また、意味と表現が一致しなかった項目については、図書館 Web サイト上で達成することが難しい内容のものが多かった。以上のことから、本研究は図書館 Web サイトを構築するガイドラインとして参考になることが示された。

(指導教員 宇陀則彦)